

学校法人東京聖栄大学 平成 27 年度事業計画

日本の社会は、これまで強調されてきた＜少子高齢化の進行＞という社会状況から、現状はさらに、＜回復困難な人口減少社会に陥っている＞と言われている。

また、人口減少と若年女性の減少から、日本の半数の自治体は消滅可能性都市である、とした日本創生会議の推計が発表され、社会に大きなインパクトを与えたことも背景として、政府は、＜地方創生＞、＜東京圏集中の是正＞という方針を打ち出している。

もとより、学校法人東京聖栄大学が設置・運営する学校は「東京圏」に存在しており、上記のような状況の下ではあるものの、教育事業の対象となる、学生・生徒・園児の確保を至上命題とし、財政の均衡を念頭におきつつ、より良い教育を目指して、教職員が一丸となって職務に邁進することが求められている。

平成 27 年度は、学園を挙げて策定した『第Ⅱ期中長期計画（2015-2019）』の初年度として、特に以下の事項を重点として事業を推進するものとする。

1 東京聖栄大学 ～開学 10 年から、更なる飛躍へ～

- ・組織的な FD 活動による教育の向上
- ・「大学運営会議」の設置による学長を中心とした全学運営体制の充実強化
（現行「学部長学科長会議」の改組）
- ・正課『キャリアリサーチ』の開始、就職支援アドバイザー等による就職支援強化
- ・学生募集広報活動の積極的展開
- ・共通教育センターの設置、運営
- ・10 周年記念行事の挙（6 月 6 日土曜日予定）
- ・食品学科の見直し（附属調理師専門学校の今後のあり方、見直しの検討と連動）
- ・学部名称の見直し（検討）
- ・研究の活性化
- ・教員年齢構成の是正に向けた努力
- ・自己点検活動による不断の見直しと向上
- ・改正学校教育法の施行、学内規則の改正施行を踏まえた運営
- ・社会貢献、地域貢献活動の推進

2 附属学校

1) わたなべ幼稚園

- ・わたなべ幼稚園の特色の推進（他園との違いをブランドに）
- ・新給食施設を生かした安全でおいしい給食の提供
- ・「食育」の一層の推進（東京聖栄大学との連携。保護者を含めた食育）
- ・預かり保育の充実

2) 調理師専門学校

- ・今後のあり方についての検討
- ・学生・生徒募集対策
- ・新たなカリキュラムに基づく授業の実施（東京聖栄大学教員との連携）
- ・施設設備の安全管理

3 管理運営

- ・理事会（常務理事会）による学園全体のガバナンスと適正運営
- ・学園70周年事業検討（平成29年度へ向けての検討開始）
- ・保有資産、施設の有効活用検討
- ・寄付金募集の促進
- ・職員の育成
（資質向上、幅広い視野、教育に関わる職員としての人格・人間性）
- ・防災対策 備蓄物品の充実、備蓄資機材の使用習熟、防災訓練 等

以 上